

巻頭言

働く人から暮らす人まで、誰もが自分らしい 100年を生きるライフソリューション

100-year Solutions that Allow People to Work and Live as They Wish



平岡利枝 Toshie Hiraoka

執行役員 リビング・デジタルメディア事業本部 副事業本部長

Corporate Executive Group Senior Vice President, Living Environment & Digital Media Equipment

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生から2年がたち、2022年は厳しい行動制限の緩和への取組みが徐々に始まりました。私たちを取り巻く社会状況は、新型コロナウイルス禍前に戻りつつあるように見えますが、新型コロナウイルス感染拡大で起きたライフスタイルの変化は日常の一部になり、私たちの暮らしも大きく変化しています。

オフィスや店舗などの商用空間では、フィジカルディスタンスの確保と働き方改革を考慮した安全で快適な空間価値が求められるようになりました。また、家庭では換気意識の高まりと在宅時間の増加によるライフスタイルの多様化が進みました。

一方、温室効果ガスによる地球温暖化対策としてCO₂削減、持続可能な社会の実現に向けたSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)達成など様々な社会課題への取組みが求められています。

このような中、三菱電機のリビング・デジタルメディア事業は、「働く人から暮らす人まで、誰もが自分らしい100年を生きるライフソリューション」の実現に向けて、IoT(Internet of Things)、AI技術を活用した製品・サービスを提供し、社会に貢献していきます。

この特集号は、当社のリビング・デジタルメディア事業の製品とソリューションに関する論文を掲載しています。それらの特集論文に先立って、幾つかの事例をご紹介します。

(1) “スマートe-Floシステム”による空調換気連携ソリューション

新型コロナウイルス感染拡大で換気意識が高まり、居住空間の快適性向上と省エネルギー運転を両立する換気システムへの関心が強くなりました。当社は、三菱ルームエアコン“霧ヶ峰”と住宅用全熱交換型換気機器“ロスナイ”との空調換気連携運転をIoTライフソリューションプラットフォーム“Linova(リノバ)”を介して実現する“スマートe-Floシステム”を開発しました。エアコンのセンサで検知した在室人数に応じた換気風量の自動切替えや、ルーム

エアコンの運転状況や室内外の温度差に応じた換気方式の自動切替えによって、室内の快適性を保ちながら、効率的な省エネルギー換気を実現します。さらに、非熱交換型換気扇の換気扇IoT連携にも対応し、オフィスや店舗などでも効率的な換気運用を実現します。

(2) 2022年度発売の家庭用三菱エコキュート(家庭用自然冷媒CO₂ヒートポンプ給湯機)

大気熱を利用して湯を沸かすことで電力消費量とCO₂排出量を抑えるエコキュート^(注1)は、環境配慮の観点からも注目されています。2022年度発売の家庭用三菱エコキュートは、深紫外線を用いて風呂の湯水を除菌する“キラリユキープPLUS”を搭載し、風呂の湯水の清潔性向上ニーズに対応します。また、貯湯タンクから取水しやすくなった“パカッとハンドル”は、防災対策として断水時の生活用水の確保にも対応します。さらに、当社家電統合アプリ“MyMU(マイエムユー)”に“キラリユキープPLUS”の遠隔操作や冬期の凍結予防対策のお知らせ機能などを追加し、利便性を向上させました。

(3) ジャー炊飯器発売50周年記念モデル “本炭釜 紬(つむぎ)”

IH(Induction Heating)ジャー炊飯器“本炭釜 紬”は、当社が1972年に業界初^(注2)となるジャー炊飯器“ふた役さん”を発売してから、50周年になる製品です。内蓋は凹凸の少ないシンプルな構造にすることで手入れの負担を低減しています。また、多様化するライフスタイルへの対応として、“まとめ炊き(冷凍用)”モードや、“少量名人”モードなど豊富なメニューを搭載し、一人一人に合ったおいしさと使いやすさを提供します。

当社のリビング・デジタルメディア事業は、「働く人から暮らす人まで、誰もが自分らしい100年を生きるライフソリューション」の実現に向けて、これからも社会に貢献していきます。

(注1) エコキュートは、関西電力㈱の登録商標です。

(注2) 1972年3月、当社調べ。